

なんでも
アナリストの
つぶやき

構造改革～株価上昇のアンカー

森田アソシエイツ 代表
ワールド ゴールド カウンシル 顧問
埼玉学園大学大学院 客員教授
森田隆大

株 価が上昇気流に乗れない
でいる。ここ数年日本市
場を支えてきた外国人投資家
は、ここにきて大きく売り越し
ている。アベノミクスに対する
期待が薄れ、日本が再び経済成
長軌道に乗る道筋が見えてこな
いことに対する懸念が根底にあ
る。国内においても、日銀の積
極的な金融政策の効果がなか
か実感として認識されず、アベ
ノミクスの第三の矢である成長
戦略の実効性が明確に見えない
現状では、日本経済の本格的な
復活は望めないとの見方が急増
している。

スイスのビジネススクール・
I M D 国際経営開発研究所が
発表した代表的な国際競争力
指標である「世界競争力年鑑」
2016によると、日本は世界
で26位、香港、シンガポール、
台湾、マレーシア、中国などの
アジア諸国より順位が低い。ま
た、米フォーブス誌が刊行し
た「世界の有力企業2000社

ランキング(グローバル2000)
2016年版にトップ20入りし
た日本企業はトヨタだけである。
こうした指標が日本経済・企業
を正しく評価しているかどうか
についてはさまざまな議論があ
るが、現状の日本の競争力では、
これまでの経済規模を維持でき
ないことを示唆しているのでは
ないだろうか？

我々は積極的な金融政策や大
胆な財政支出も時間稼ぎであ
る、と真剣に再認識すべきでは
ないだろうか？ 持続的な株価
上昇、言い換えれば、日本経済
の本格的な再浮上は、経済競争
力の再構築にこそ、その答えが
あると考えるべきではないだろ
うか？ 今でも世界第三の規模
を持つ日本経済は、新分野の育
成だけで成長をもたらすことは
できず、これまで日本の経済の
持続性を支えてきた企業体の競
争力の底上げが最重要課題と考
えるべきではないだろうか？
規制緩和、コーポレート・ガ

バナンス改革などはもちろんの
こと、グローバル化する世界経
済への早急な対応も不可欠であ
る。グローバル競争における優
位性を確保できる規模を構築す
るための大型海外買収、グロー
バルオペレーションを成果させ
るための日本型経営の進化、日
本の技術力の根底を支える中小
企業の競争力向上を図る国内合
併の推進、有望な中小企業の本
格海外進出を可能にする資金誘
導策、日本市場の低収益・過当
競争要因となっている経営者の
適正価格・利潤に対する意識の
改革などである。

今の日本に必要なのは、政府・
企業・国民がある程度の変化・
痛み・リスクを許容する、大胆
な構造改革を遂行する勇氣と決
意ではないだろうか？ 構造改
革の実行が見えてくれば、国内
だけでなく外国人投資家が日本
を見る目はすぐさま違ってくる
のではないだろうか？ 日本に
はそれだけの実力がまだある。☐

もりた・たかひろ

森田アソシエイツ代表。ファースト・シカゴ銀行を経て、1990
年にムーディーズに入社。格付委員会議長、事業会社格付部門
責任者を歴任。2016年よりワールド ゴールド カウンシル顧問。
著書に「格付けの深層」など。埼玉学園大学大学院客員教授を兼任。